

議員定数・報酬等調査研究特別委員会 住民懇談会

令和6年8月31日（土） 10：00 倉井コミュニティ消防センター

出席議員（議席番号順）：三ツ井議員、中井議員、小林委員長、瀧野副委員長、
渡邊議員、中島議員、樋口議員、風間議員、石川議員、
清水議員、大川議員、伊藤議員、原田委員長、青山議長

住民参加者数：18名

司会：渡邊議員 あいさつ：青山議長、原田委員長 説明：瀧野副委員長

質問・意見等（発言順）

質問①

江藤教授の講演会を聞いた所、定数や報酬を決める前に議会はどうあるべきか、この議会を今後どうしていきたいのかという事があって、その結果として、状況がこうだから定数はこうする、報酬はこうすると結論づけるはずだが、そういった事がない自治体が多すぎるとの事であった。それについては、どう考えるか。

回答②

議会のあり方については、現在の議会の前に、議会改革という事で先進的な議会として、全国から高く評価されて、視察を受けているのが実情である。議会のあり方については、住民と共に進めていくという二元代表制の意味も込めて、しっかりと議論していきたい。このように進んでいくべきであるという話し合いは、特別委員会では持っていないので、これから協議していきたい。

質問③

議員定数については14人で良いと思うが、報酬について、原価方式での算定が実際の稼働日数から計算するのが非常に難しいということは理解できるが、仮に100日として計算したときに、月17万、年間200万なので、1日当たり2万という数字になるが、これは私の感覚ではそう悪くない数字だと思う。実際に議員の感覚として、これが仕事量に対して多いのか、少ないのか、どう感じているのか。

回答③

定例会が年4回（3・6・9・12月）あり、会期日数に原価モデルを入れて計算すると、大体21万3000円ぐらいの金額になる。これはあくまでも会期日数を基本としているものであり、議会活動や議員活動の計算とは別であるが、活動日数の割に報酬は少ないと考えている議員は多い。

質問④

報酬増に関しては、今少ないから上げたいのか、今後、議員として手を挙げてくれる人が増えるのではないかと期待しての増額なのか。

回答④

今回の特別委員会の結果をもって、次の改選時、来年の10月に向けてスタートしていく予定で進めており、あくまでも今の議員がこれだけの報酬が欲しいと考えてる訳ではなく、将来に向けての議員報酬を決めていこうと考えている。議員報酬を上げれば、女性や若者の議会への参画が期待できるのではないかとと言われており、生活給にはならないが、なるべく多様な人に出てきて頂きたいという考えである。

質問⑤

増額の場合に金額の決定を町長に一任ではなく、ある程度金額を決めて要望すべきではないかと思うが。

回答⑤

議会の方で決めるという考え方もあるが、議員の報酬を議員で決めてしまうというのは、お手盛りになってしまうのではないかという意見が多数あった。議会としては、町長に要望書として提出すると決めた。

質問⑥

江藤教授の講演を聞いたが、事務局も少ないという意見も出ていたが、それについてどう考えるか。また、委員会7名という話だが、その人数が適切なかどうか。また報酬の関係では、議員の活動の見える化が出来ていないと思う。これだけやっているが、足りない。将来的にもこうなれば若い人も出てくるのではないかという部分も議論をして頂きたい。事務局も議員のサポートが出来る様に、もっと人数を増やしても良いと思う。一般質問の傍聴に行ったが、驚いたのは短い人は30分程で、町長の答弁ともかみ合っていないで終わってしまった。他の傍聴者も時間がもったいないと言っていた。議員は、与えられた時間をしっかり使ってもらい、そういうことをしっかりやっていくのが、大事な仕事の一つだと思う。そういう所を見ていると、報酬は多すぎるのかと思ってしまう。自分としては、定数は現状維持で、報酬を上げた方が良くと思う。無投票になった時に、個人個人が4年間で何をやって、どういう町にしたいという方向性も示して頂かないと、ただ何もしないで4年間終われば良いと言う考えでは、議会の活性化にもならないし、地域の活性化にも繋がらないと考える。議会報を見ていると、まだ一回も質問をしていない議員もいるし、発言していても、その意見によって地域がどうなるのかということが分からない質問がいっぱいあった。身近な問題から、地域の活性化や人口増など、そういうことを議員の人が一番旗を振ってやっていかないと地域は良くなれないと思う。

回答⑦

要望として伺う。

回答

常任委員会について、飯綱町議会は現在、常任委員会2つで7人ずつ、そこにプラス議長で15人。今、議長は常任委員会に所属していないが、議長も常任委員会に所属できるということになっているので、例えば議長を常任委員会に所属させて、常任委員会7

人ずつで 14 人。議長を所属させないで、常任委員会 6 人ずつに議長をプラスして 13 人という考え方がある。今回の町村議長会の最新の報告によると、全国の町村でも議長が常任委員会に所属しているのが 69.8%という事であるので、そういった所も含めて話し合っていかなければならないと特別委員会の中でも話した。また、傍聴については、過去 10 年間で一般質問した議員数の推移をグラフでお示しするのでご覧頂きたい。令和 5 年度では飯綱町では 21 人の議員が一般質問したが、全国平均が 24.7 人、長野県平均が 29.6 人なので、全国や県に比べて、非常に人数が少ないという訳ではないが、10 年前の飯綱町議会と比べると半数ぐらいになっている。勿論、一般質問をすればよいという訳ではなく、今、ご意見頂いたように、一般質問をするという機会を得ることも議員としての権利であり、大事な事であるし、その内容充実についてもご意見を頂いたので議会の方でも持ち帰って話し合いを持ちたい。また、無投票になったことで議会モニターアンケートでも選挙公報をぜひ出して欲しかったという意見があったが、公職選挙法の関係もあり、難しい部分があり、結局、4 年間のこれからの目標のような緩やかなタイトルで個人個人でお出しした経緯がある。

質問⑧

議員は一般質問を考える場合、どのような事を考えて作っているのか。地元の要望もあるだろうが、具体的にどのようなことを考えているのか。

回答⑧

それぞれの議員によって変わってくるが、例えば自分の場合は色々な社会的状況を見て、町に対して提案をしていった方が良いのではないかという思いから一般質問をしている。それが実現すると議員をやっている良かったと感じる。

質問⑨

江藤教授の講演会で、議会だよりの一般質問は、総合計画のどの部分に当たるのかという話があった。今は道の関係などは、各組長、協議委員が区長に要望し、それを区長が町に報告するという流れになっている。そうすると議員は総合計画を基に質問しないと、自分の思いでやっているのは良いが、総合計画という立派なものがあるのに、どの程度、達成されているかという事も含めて質問して頂きたい。結局、議員の活動が見えないから、定数を減らしても良いのではないかという意見になっていると思う。

回答⑨

要望としてお聞きする。

回答（ここまでの一部の質問者に対して）

一般質問は時間的なことは、中身のあるものであれば問題ないと思っている。一般質問で注意しなければいけないのは、一般質問は分からない事を聞くのではないということ。議員報酬をもらって仕事をしているので、しっかり調べて、町長の考えと違うことを指摘し、提案する一般質問であって欲しいと思っている。

議員の一番の目的は、住民の福祉向上のために、皆さんから意見を聞いて、議会で

その意見を町に出して、一生懸命活動することである。また議決責任。町長は提案者であり、議員は議決者であるので、中身を精査して議決をすること。また決められたことをその通りにやっているかチェックをすることも重要。また、皆さんからの意見を議会で提案することが議員の仕事である。

質問⑩

議会は二元代表制の一翼を担うものであり、基本的に考えなければならないのは、議員が果たすべき役割であり、それに見合う報酬はどうかを論じなければならない。その一方で、議員のなり手がいない。その原因は報酬が低いことかもしれない、プラスして飯綱町は過疎化、少子化という流れの中で、議員の報酬、議会のあり方というよりも、個人の生活がどうあるべきかということが論じられなければならない社会情勢になってきて、非常に複雑になっている。昔は、議員は身近な存在だった。大人になったらこの様にならなければと教えてくれたのが議員だった。今は議員が非常に遠い存在で、何をやっているのか、どれほど報酬をもらっているのかはほとんど関心がない社会情勢になっていることに非常に危機感を覚える。女性の社会進出と言われているが、議員には女性がいるが、この会場には男性がほとんどである。町政や町議会に対する信頼度が反映されていると思う。この懇談会の目的はどこにあるのか、懇談会に来ている人が何を求めているのかを大局的に論議して、方向性を示して欲しい。お手盛りでも良いと思う。金額が良いか悪いかという議論で終わらせて欲しくない。先日、一部の議員からチラシも配布されたが、報酬以外に政務活動費やその他にまつわる活動費をつまびらかに出来ないか。

回答⑩

議員のあるべき姿として受止めて、考えていきたい。

質問⑪

政務活動費以外の手当では出ているのかという質問に対して、検討するという事か。

回答⑪

政務活動費は、個々に申請をして使用の許可が町から下りてくる。残念ながら行き違いがあり、現在は議会としては自粛となっている。町の方では、議会で定数と報酬問題を検討していく中で、政務活動費のあり方についても、次回改選時に結論を出していきたいという話があった。

回答

政務活動費以外の手当があるかという質問に対しては、それは無い。

質問⑫

日本一女性が住みたい飯綱町というキャッチフレーズに非常に共感しているが、議会として、何か決め手になるような提案は無いか。

回答⑫

町がテーマにしている日本一女性が住みたくなる町というのは、女性に限らず、全員

がという事で、女性が頑張れば、皆が頑張れるという事だと思う。自分も地域の中で、大字の役員等に女性に出て頂くにはどうしたら良いかという事を常に皆さんと考えている。なり手不足打開策の一番大きいものは女性のなり手と言われているが、女性だけでなく、男性にも頑張ってもらいたい。町は子育て関係も色々やってくれているので、外から見た飯綱町はとても子育てしやすいと思われているので、女性が住みやすい環境というものも考えていきたい。

回答

女性活躍と言われるが、今、町内でも各組長さんなど女性が出てきて少しずつ進んでいるところだが、やはり全体的に見ると女性がまだ少数派であるという状況である。議会は女性議員は3名いるが、一緒に女性活躍について議論し、予算政策要望書の提言の中に、女性活躍ということを町で条例を作って欲しいと要望を入れた。条例を作って終わりではなく、町でもしっかりと後押しをするという意味表示として、やって頂きたいと考え、要望書に入れた。

意見

女性議員の活躍については、議会報等で承知しているが、自分の見ている限り、立派な活動をしている。その方を含めて次回、議員立候補者には出来るだけ尽力をしたいと考えている。女性の皆さんが一生懸命になって頂ければ、色んなことが少しずつ元気に変わる可能性が十分にある。どんなことをしても、女性議員が増えなければならないと思う。

質問⑬

あまり女性女性というと、町の活性化を女性に押し付けているような感じがして気が引けるが、女性が議員になろうとするのに障害になっているもの何か、女性議員にお聞きしたい。

回答⑬

自分はたまたま党から出させて頂いたが、一番大変なのは家族の賛成を得ること。議会中心に動いてしまうと、家庭の中をうまく回すことができない所が一番大変なところ。牟礼村の生まれで牟礼村で育ったが、やはりまだ女性が頑張ると跳ねているという風に思われてしまう部分がある。地域の皆さんには、女性議員を出すという空気を作って頂いて、出たいと言ったらしっかりと応援して頂く。ここは良いが、ここは直した方が良いという事も含めて、率直にしっかりと支えて頂くことが大事だと思う。

11:30 懇談会終了

以上